

# 令和6年度 学校経営要綱

久山町立山田小学校

## I 学校経営の基本構想

### 1 学校経営の基盤

#### (1) 公教育の立場に立つ教育

○日本国憲法、教育基本法、学校教育法等の関係諸法規、学習指導要領、県・町の教育施策に則した公教育を行う。

#### (2) 社会の要請に応える教育

○中央教育審議会が提言する全ての子どもたちの可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びの実現を図る「令和の日本型教育」の構築を目指す。

○自ら学び、自ら考えることを基本とし、たくましく生きる力の育成を中心に、新しい教育課程のねらいに則する教育を行う。

○第四期教育振興基本計画で示された2つの点を重視

「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」

「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」

#### (3) 地域の実態をもとに、その願いに応える教育

・町づくりの柱（ふれあい・美化・健康）と町道徳宣言を重視し、創立150年間の歴史と伝統を尊重して、地域や保護者の信託に応える教育に努める。

### 2 コミュニティ・スクール「共育」目標

## 地域を愛し、社会を生き抜く子どもの育成

#### 【教育目標に対する校長の考え】

「地域を愛し」とは、地域のよさを実感し、地域のために自分にできることを考え、行動しようとする事。そして、「社会を生き抜く子ども」とは、VUCAと言われる予測困難なこれからの社会において、他者とコミュニケーションを図りながら、たくましく生きることができる、次の3つの力をもった子どものことである。

○「学び合い」…よく聴いて考え、のびのびと表現する子ども

○「助け合い」…思いやりや感謝の心をもって行動する子ども

○「鍛え合い」…励まし合い、最後まであきらめずに努力する子ども

#### (1) めざす学校像

○ 人との触れ合いを大切にする地域に開かれた学校

・地域の「ひと・もの・こと」のよさを活用し、学校と保護者、地域で連携して「共育」する学校

・教育活動の発信を積極的に行い、保護者や地域の共感的理解を得る学校

・地域のよさを見い出し、地域で活動することや働きかけることに喜びをもつ子どもを育てる学校

(2) めざす教師像

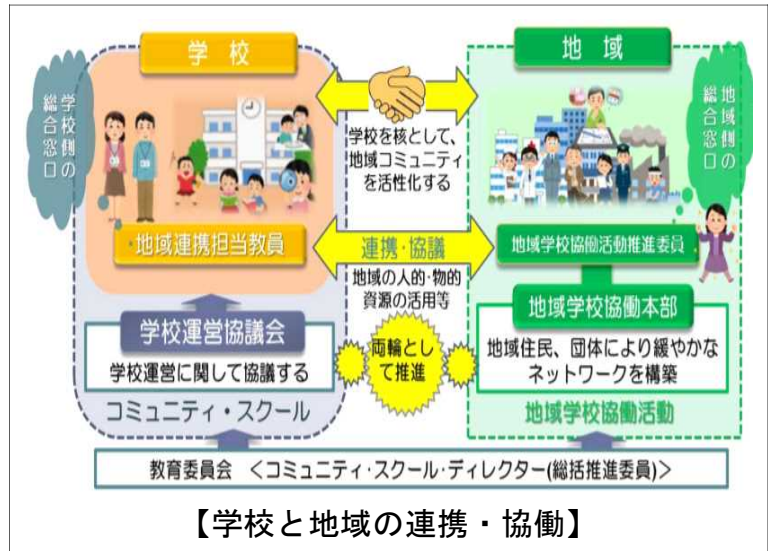
- 教育に使命感と情熱をもち、教育愛に溢れる教師
- 子どもの成長を願い、キャリア・ステージに応じて自己啓発、自己研鑽に励む教師
- 子どもの生き方モデルとなる社会的な規範を身につけた教師

3 学校経営の基本方針

(1) コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を生かした地域の「ひと・もの・こと」の積極的活用

家庭や地域との連携を密にした開かれた教育活動を展開し、学校教育、家庭教育、社会教育が一体となって、地域と共に本校が目指す学校を実現していく。

- 地域学校協働本部との連携による地域の教育力(地域のひと・もの・こと)の活用 (各教科・領域等、読み聞かせ、できるまでやるっ隊、クラブ活動)
- 家庭・地域との連携 (挨拶運動、お弁当の日、家庭学習等)
- 幼保・小・中学校との連携 (幼保小交流会、まるごと体験等)
- 「伸びようと動く子ども」を育てる道徳教育の継続実践



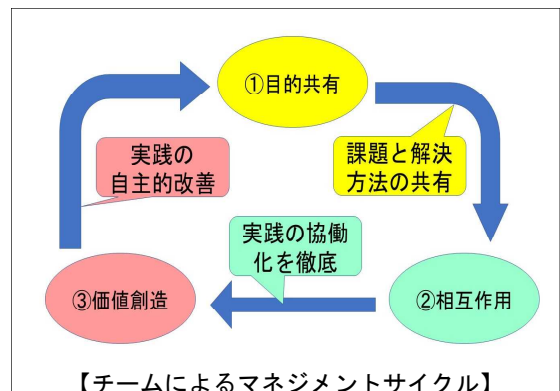
(2) 経営の基本方針

- 3つのチームの組織力を発揮させることで共育目標を達成する。「個業型」ではなく、「協働型」の学級経営や校務分掌にする。学年代表者・ミドルリーダー(校務分掌の主任とチームリーダー)を核としたチーム力の向上
  - PDCA(年、学期単位)サイクル+AARサイクル(即時性を求められる場合)の教育活動
- ※AARサイクルとは、「Anticipation-Action-Reflection (見通しー行動ー振り返り)」のサイクルで、ある程度の見通しが立ったらすぐに行動してみる。計画に時間をかけすぎて機を失するのではなく、行動した後の振り返りを重視したサイクルです。

(3) 学校のチーム化 (3つの学力向上・心力向上・体力向上チーム)による教育活動

ア チームによるマネジメントサイクル

チームリーダーを中心として、「目的共有→相互作用→価値創造」のチームによるマネジメントサイクルでチームの取組を推進する。



①**目的共有**…子どもや職員組織の実態に基づく学校の課題及び解決の方策を日々の教育活動で共通実践する。

②**相互作用**…課題解決に向けてコミュニケーションを図り、お互いに専門性を高めたり、支え合ったりして、仕事の協働化を推進する。

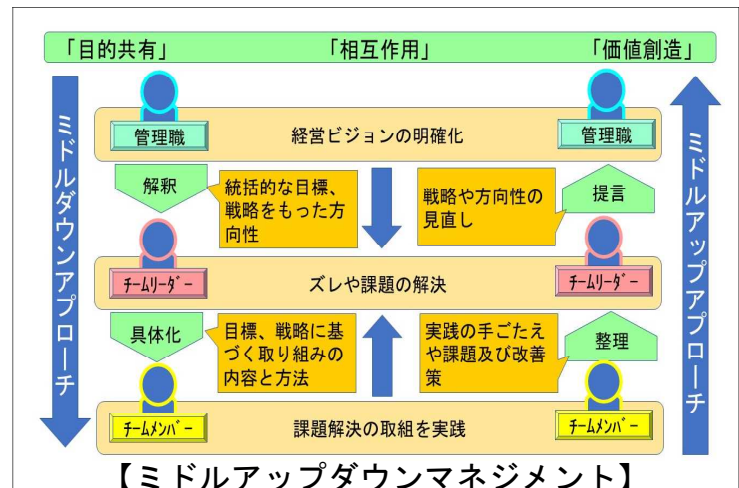
③**価値創造**…実態や課題に対応した本質的な発想や変革を重視し、新たな挑戦を生み出す。

### イ チームリーダー(ミドルリーダー)

校務分掌の3つのチームと学年部を関係づけて組織化し、学力向上チームに学力向上Co、心力向上チームに道徳推進教員、体力向上チームに体育主任が「チームリーダー」となって、PDCAによるマネジメントを行う。同一チームの管理職と主幹教諭が、チームリーダーをサポートする。

### ウ チームリーダー会議

チームリーダー会議は、管理職、主幹教諭、チームリーダー(3名)で構成し、各学期の始めと終わりに実施。(年6回)チームリーダーを中心として、ミドルダウンアプローチとミドルアップアプローチの機能を発揮できる会議にする。



## II 本年度の経営の重点

### 1 学校の課題

#### (1) 教育課題

- 基礎的・基本的な学力を身に付け、それを活用する力の向上を図ること。
- 自尊感情及び自己有用感、人権尊重の精神の育成を図ること。
- ICTスキルの向上を図ること。

#### (2) 経営課題

- 創立150周年事業の成果をもとに、学校と保護者、地域の更なる連携を図る。
- キャリアステージに応じた指導力の向上を図る。
- 3つのチームで目標の共有化や協働化、価値の創造ができるシステムの構築を図る。

### 3 本年度の重点目標

**学校と家庭、地域と連携し、主体的に学ぶ子どもの育成**

#### 4 重点目標達成のための方策

##### (1) 3つのチームによる具体的な取り組み

【学力向上チーム】…チームリーダー〈学力向上コーディネーター〉

**よく聴いて考え、のびのびと表現する「学び合う」子どもを育てるために**

○「令和の日本型学校教育」の構築を推進し、すべての子どもの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現を図る。そして、基礎的な学力と表現・交流力の育成に力を注ぎ、学力向上を目指す。

○主題研修と一般研修による指導力の向上(R6年度低・中・高、特支で年間各1回**講師招聘による全員研修会**を設定) **数値目標 全員研修会 年4回**

※毎月主題研1回、一般研修1回を基本。 **数値目標 月各1回(但し、8月は除く)**

○算数科を中心とした主題研修の充実

- ・自己調整学習によるAARサイクル(見通し→活動→振り返り)を重視した授業改善
- ・デジタル教科書を活用した授業づくりの推進
- ・タブレットを使った表現・交流活動の工夫やズームやグーグルミートを活用して他者(他機関)とのつながりを創出

○学力の基礎基本の定着のための取組

- ・学力向上プランを基にしたPDCAサイクルによる取組
- ・「久山スタイル」の徹底

#### 「久山スタイル」久山町の子どもたちの約束

- ①話すとき相手の顔を見て話します。
- ②きくとき、話す人の方へ体をむけてききます。
- ③いつも、背筋がピンとのびています。
- ④名前をよばれたら「はいっ」と元気に返事をします。

・学習ノートづくりや山田っ子検定、漢字検定、家庭学習の改善による学習の基礎基本の定着

- ・指導体制(交換、合同、TT、少人数など)の工夫を通して、基礎・基本の定着
- ・習熟度別学習、少人数学習における低位層のフォローアップ
- ・特別支援学級、通常学級での特別な支援が必要な子への指導・支援の充実

○実体験や人とのつながりを重視

・AI技術が高度に発達するSociety5.0時代だからこそ、知・徳・体を一体的に育むために、教師と子ども、子ども同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動など、様々な場面でリアルな体験を重視する。

○家庭学習の見直し(予習の重視とタブレット活用)

・予習を重視した家庭学習の仕方を学年に応じて校内で統一し、学校と家庭で共通理解を図る。

・長期休業中のタブレット持ち帰りだけでなく、タブレットを文房具として日常的に家庭学習(反転学習)で活用

**数値目標 タブレットの持ち帰り月2回以上(1年生は夏休みから)**

## 【心力向上チーム】…チームリーダー〈道德教育推進教員〉

### 思いやりや感謝の心をもって行動する「助け合う」子どもを育てるために

- 組織で対応していじめ事案の100%解消。
  - ・いじめ事案の担任→学年主任→生徒指導主任→管理職による把握を完全に行い、学年チーム、生徒指導部等の組織で解決にあたる。
  - ・久山中学校適応指導教室や久山町福祉課、SSW、SC、児童相談所などとの連携
  - ・「報告(事実と見通し、対処の3点セット)・連絡・相談(対処を考えられない場合)」の徹底
- 「居心地のよい学級」づくりを目指し、不登校・不登校傾向の児童理解に力を注ぐ。
  - ・久山町道德・人権教育実践交流会の機会の活用～自他を大切にする学級経営の充実～
  - ・子どもたちのよさを認め合える学校、教室環境の充実
- 道德教育の充実
  - ・「伸びようと動く子ども」を育てる道德教育の継続実践
  - ・他教科・領域、行事等との関連を図り、道徳的実践力の向上
  - ・道德参観による地域・家庭への啓発、及び連携指導(地域のもの・ひと・ことの活用)の充実
- 挨拶とお礼の気持ちを伝えることの奨励 ※担任がよいモデルとなる。
  - ・挨拶運動や道德推進挨拶運動による「明るい挨拶」と横断歩道で停止したドライバーへの「お辞儀」の指導を徹底
  - ・好ましい人間関係等を育むための食育の推進と「ふれあい弁当の日」の指導の充実
- 読書活動の充実 **貸出目標冊数 低学年110冊 中学年90冊 高学年70冊**
  - ・朝読書や読み聞かせ、おすすめの本の紹介、読書週間による読書意欲の向上
  - ・久山町電子図書館の積極的な利活用(子どもと職員)
- 日常の清掃活動の取組
  - ・「黙働清掃」「清掃後の振り返り(反省会)」の徹底

## 【体力向上チーム】…チームリーダー〈体育主任〉

### 励まし合い、最後まであきらめずに努力する「鍛え合う」子どもを育てるために

- 一人一人の運動時間を確保する体育科の指導及び日常的な体力アップの取組の充実
  - ・運動時間と運動量を確保するための場づくり
  - ・福岡県スポーツ研究所が作成したDVDの体育授業への活用(準備運動や模範演技等)
  - ・経年比較で体力向上を目指す。
  - ・新体力テストの「課題把握→分析→改善策・実践→評価」(共有化)のサイクル実施
- 体力向上プランを基にした体力の向上
  - ・1校1取組(校内長縄集会)等による体力向上の推進
  - ・スポコン広場への登録、体力アップシートの活用による日常的な運動意欲の継続
  - ・目標に向けて努力する全校的な取組の設定(「持久走週間」、「大縄週間」等)
- 日常の体力向上の取組
  - ・日常的な外遊びによる体力づくり(スポコン広場、全校・学級遊び等)
  - ・GTや栄養教諭、養護教諭を活用した給食指導と保健・安全指導の推進

## (2) 家庭・地域と協働した子どもの「共育」

- 学校運営協議会による保護者・地域の方々の学校運営参画の推進
  - ・「熟議」を通じた教育目標と取組の共有
  - ・道徳推進挨拶運動の取組(毎月20日の朝の挨拶運動など)
- 家庭・地域と連携・協働する学校評価システム
  - ・教育評価の改善・評価の公表の推進 ・学校の教育活動の積極的公開
  - ・道徳公開学習(学習参観)、ICTを活用した公開学習(学校関係者評価委員会2月予定)
  - ・説明責任を果たし、学校改善に生かす情報公開の工夫  
(PTA総会、来入見一日入学説明会、学校運営協議会、学習参観等で説明)

## (3) 教育専門職としての資質を高める研修の推進

- クロムブックを活用した授業実践を通じた校内研究と日々の授業改善の推進
- 指導力向上を目指す一般研修の充実

### 数値目標 一般研修毎月火曜日1回(8月は除く)

- 「教師」としてよさや可能性を広げる自己研修への参加
  - ・附属小学校や他校の研究発表会 ・教育センターキャリアアップ講座や短期研修
  - ・教科等研究会 ・論文研修会 ・校内若年教師研修会 ・糟屋区教育研究所員研修
  - ・糟屋区教育懇談会 等

※2年次以上の職員の積極的な参加を推奨する。年度初めの面談や自己評価表で自己研修について確認

## (4) 危機を生まない取組の徹底

- 安全管理・危険予知の重要性を全職員で共通理解
  - ・事故やけが、いじめへの対応「さしすせそ」

<p><b>さ→ 最悪の展開を予想して！(最初の声かけが大切)</b></p> <p><b>し→ 親身になって対応！(初期対応を適切に)</b></p> <p><b>す→ 素早く対応！</b></p> <p><b>せ→ 責任をもって 誠意をもって対応！</b></p> <p><b>そ→ 組織的に対応！(相談・報告・連絡を確実に)</b></p>
---

- ・事故やけがを未然に防ぐための日常的な指導の継続、学校のきまりの指導徹底
- ・いじめ・不登校等、子どもの悩みの早期発見、早期対応
- 保健室前の相談ポストの活用、いじめアンケート・教育相談の確実な実施
  - ・危機管理マニュアルの共通理解・実行
  - ・不祥事防止の徹底(管理職による啓発+職員会や連絡会での職員同士のミニ研修)

## (5) 子どもと職員のウェルビーイングを目指した「学校における働き方改革」

- 一学期の通知表の事務処理の軽減として所見の廃止  
→業者成績処理ソフトの個人成績表を使って夏休みに個人懇談で丁寧に保護者へ子どもの様子を伝える。

○ 出退勤システムの活用

・適正な勤務状況を目指し、職員の健康に留意できるようにする。(残業時間40時間以内)

○ 校内衛生委員会の開催

**数値目標 学期1回**

- ・職員の心身の健康と勤務状況の把握
- ・会議や事務処理、職場環境について改善点の検討

○ 主題研修の精選

毎月主題研1回、一般研修1回を基本。それ以外の毎月火曜日の研修時間は、教職員の各自の研修・学級事務の時間「ウェルビーイングタイム」とする。しかし、「学校における働き方改革」は、従来の教育の質を低下させないことが前提条件。同学年や部会、校務分掌のため時間設定も可能

※「ウェルビーイングタイム」

→教職員の「ウェルビーイング」を子どもの成長や教職員として自分自身の成長のために自己研修や事務処理をすることで「働き甲斐」を感じることができる時間にする。

## 6 人権、特別支援教育の充実

### (1) 人権教育の面から

- ・幼保小中連携を図り、人権教育の取組の充実を図る。
- ・カリキュラムに基づいた副読本「かがやき」「あおぞら」「あおぞら2」を活用し、授業実践研究に努める。
- ・地域の方の願いや思いを基に人権教育の取組の推進改善を図る。

### (2) 特別支援教育の面から

○ 特別支援学級の経営の方針、発達障害の子どもたちの状況理解などの研修を行い、全職員による特別支援教育の推進

・特別支援コーディネーターを中心としてたんぼぼ学級担任、通級指導教室と交流学級担任の連絡・相談を密にして、早期対応(早期把握・早期支援)や保護者からの相談対応を行う。特別支援教育コーディネーターを窓口として専門機関との連携を図り、組織的に指導と対応を行う。

○ 個別の支援計画や指導計画を作成し、特別支援学級「たんぼぼ学級」の指導体制及び指導の充実

**数値目標 支援計画と指導計画の作成100%**

- ・たんぼぼ学級の授業公開を一般研修に位置付け、特別支援教育の研修を深めるとともに、たんぼぼ学級の児童について共通理解をする。
- ・支援が必要な児童・学級に対する担外や学習支援員、特別支援教育支援員等の人員配置については、主幹教諭と特別支援コーディネーターが協議し、主幹教諭が指示をする。

○ 豊かな体験を位置付けた生活単元学習と自立活動

- ・たんぼぼ学級園を利用した野菜栽培と販売体験 ・特別支援学級小中交流会
- ・校外学習(R5例 南蔵院へ行こう)等

### Ⅲ 教育課程編成の基本方針

#### ○ 地域の教育資源「ひと・もの・こと」の積極的な活用

**数値目標** 地域の「ひと・もの・こと」を活用した授業作り 各学年 年2回以上

##### (1) 各教科

#### ○ 学習に臨む構えの指導

- ・学ぶ意味・意義を発達段階に応じて指導
- ・物構え、心構えの指導（学習用具の準備＋先生や友達の発言はしっかりと聞くこと等）

#### ○ 児童の興味・関心を生かした指導の工夫を通して、基礎基本の定着を図る。

- ・「学び合い」の場がある授業づくり
- ・楽しさ、興味深さ、意外性、頭をひねる授業
- ・地域教材の開発や「ひと・もの・こと」の活用
- ・「めあて」と「まとめ」のある授業（算数科は、まとめの後にプラス練習問題）

#### ○ 交流活動の活性化を図る取組

- ・強い驚き（えっ！なんで？）と思わせ、「ズレ」を大切にした授業展開の工夫  
ア 既習内容や経験とのズレ イ 友達やGTとの考えのズレ ウ 資料同士のズレ

##### (2) 生活科・総合的な学習の時間

- 学んだことを異学年や保護者、地域の方に情報発信する場としての「山田っ子祭り」
- 3年生「福祉」、4年生「国際理解」、5年生「もち米づくり」、6年生「絵本作り」

##### (3) 道徳の時間

- 道徳の4つの資料活用「共感的活用」「感動的活用」「範例的活用」「批判的活用」により、主発問を明確にした授業づくり
- 地域人材などの地域のよさ(地域の「ひと、もの、こと」)を取り入れた授業づくり

##### (4) 外国語活動と外国語 ※低学年「のびタイム+20分」

- ALT(ジョン先生)と担任で連携し、楽しみながら英語表現ができる授業づくり
- 映像やゲーム、タブレットを活用した多様な学習活動の工夫

##### (5) 特別活動

- 代表者として発表や司会の体験がよい経験となるように事前指導を丁寧に行い、事後にはその児童のよさを学級や学年で称賛し自尊心を高めたり、他の児童が挑戦したいという意欲をもったりする「振り返りの場」を設定する。
- 児童会活動、クラブ活動、学校行事における異学年活動や体験、表現活動を通して、集団意識を高め、豊かな心情の育成を図る。
- 集団や社会の形成者としての見方や考え方を働かせ、学校、学級生活の適応を図り、楽しく規律ある充実した学校生活ができるようにする。



## IV 学校評価

学校評価内容	1 学期				2 学期					3 学期		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
自己評価表作成		①				②			③			
面談		当初				中間			最終			
学校関係者評価 委員会											○	
保護者			①						②			③
学校運営協議会委員			①		熟議						②	
学校(職員)自己評価					①				②			
児童アンケート			①						②			③
QUテスト			①									
町学校教育実践 報告会												○